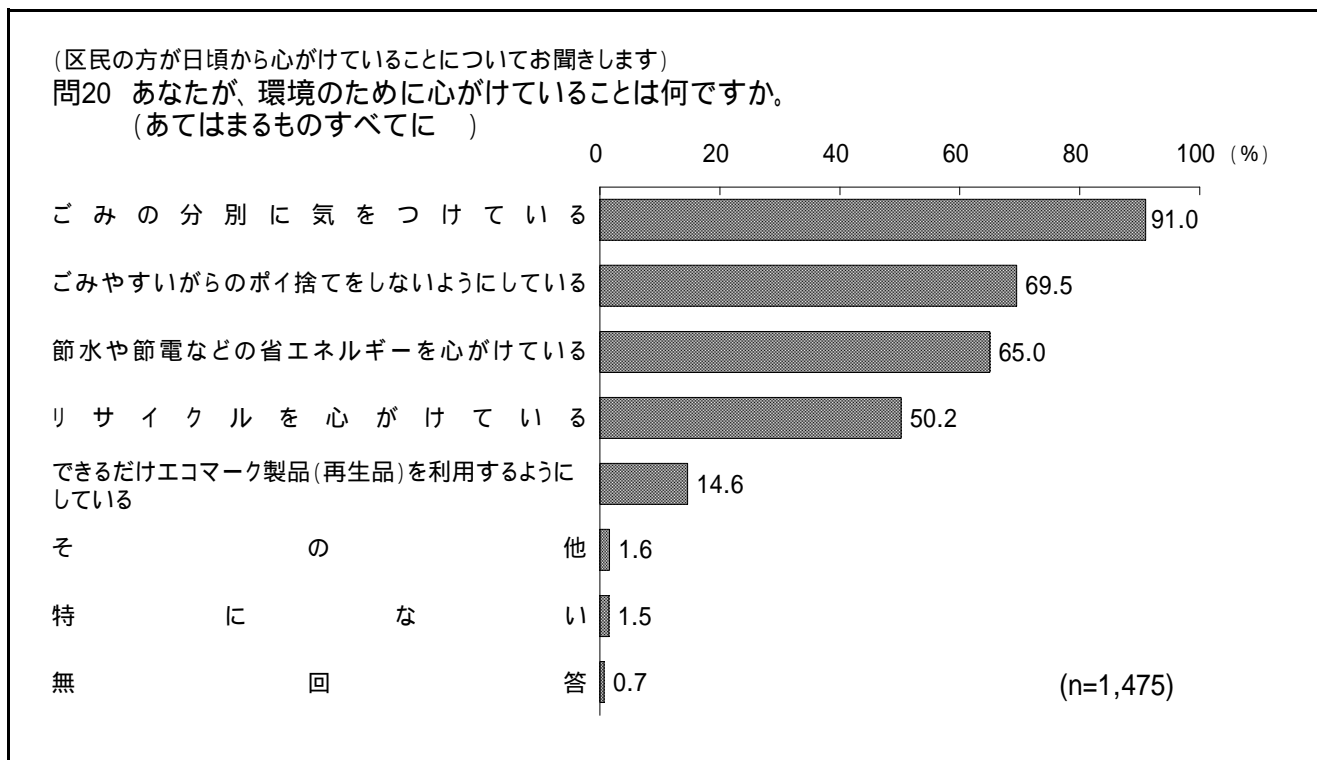


4 日常の区民生活

(1) 環境のために心がけていること

「ごみの分別に気をつけている」が最も高く約9割

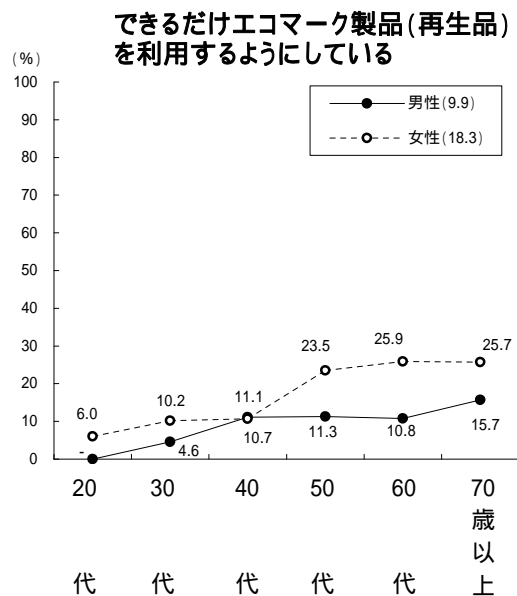
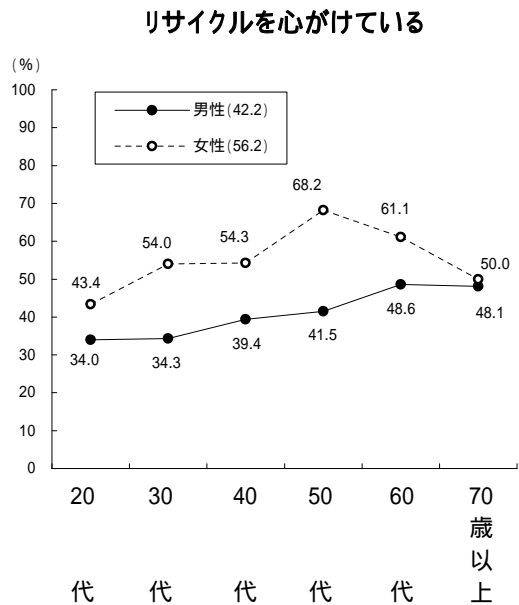
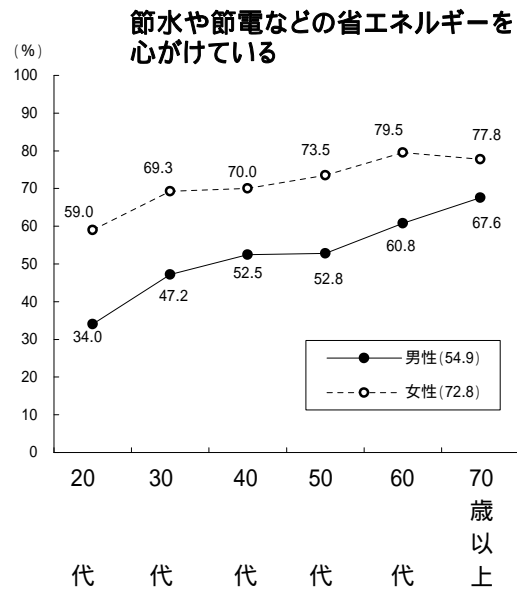
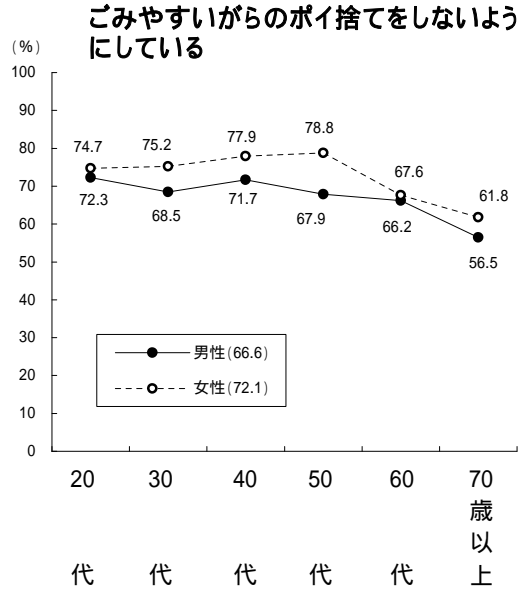
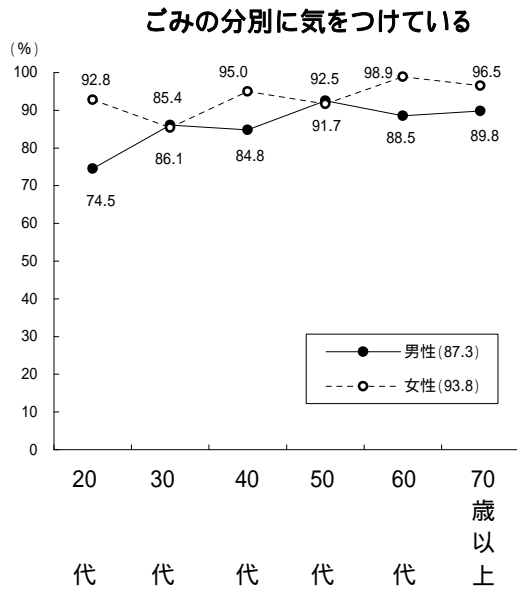


環境のために心がけていることでは、「ごみの分別に気をつけている」(91.0%)が最も高く、次いで「ごみやすいがらのポイ捨てをしないようにしている」(69.5%)、「節水や節電などの省エネルギーを心がけている」(65.0%)となっている。

性・年代別にみると、図4-1-1のとおりである。

全体的に、女性の方が男性よりも心がけていると回答する割合が高い傾向にある。また、「節水や節電などの省エネルギーを心がけている」は年代が上がるにつれて上昇する傾向がみられる。

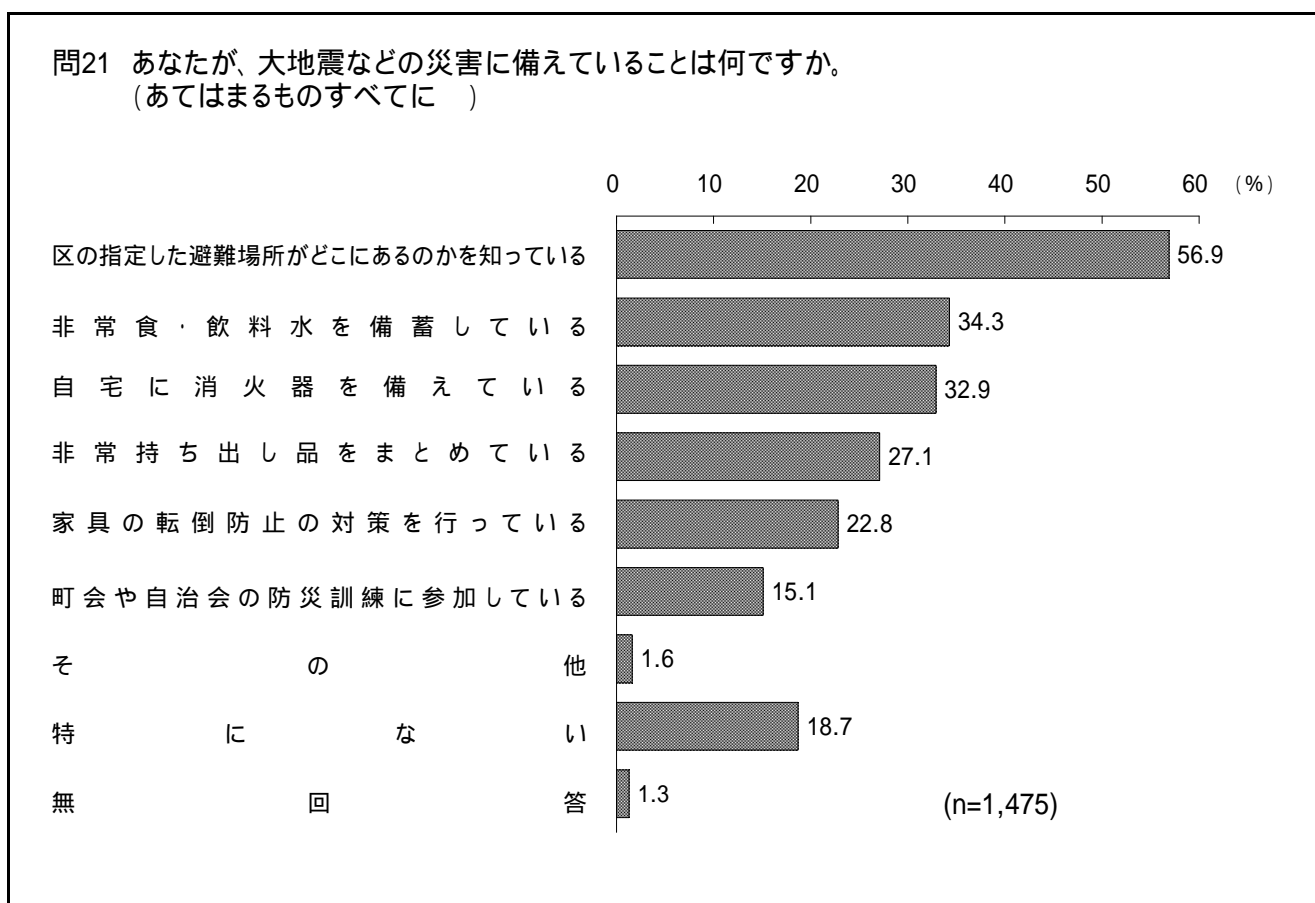
図 4 - 1 - 1 環境のために心がけていること (性・年代別)



: ()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(2) 災害に備えていること

「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が最も高く56.9%



災害に備えていることについては、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が56.9%と最も高く、次いで「非常食・飲用水を備蓄している」は34.3%、「自宅に消火器を備えている」は32.9%となっている。

地域ブロック別にみると、図4 - 2 - 1のとおりである。

「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」では第9ブロックが68.8%で最も高いが、第4、第12ブロックでは50%に届いていない。

性・年代別にみると、図4 - 2 - 2のとおりである。

全体的に、すべての項目で女性の方が男性よりも高く、男女とも年代が上がるにつれて割合が上昇する傾向がみられる。

図 4 - 2 - 1 災害に備えていること（地域ブロック別）

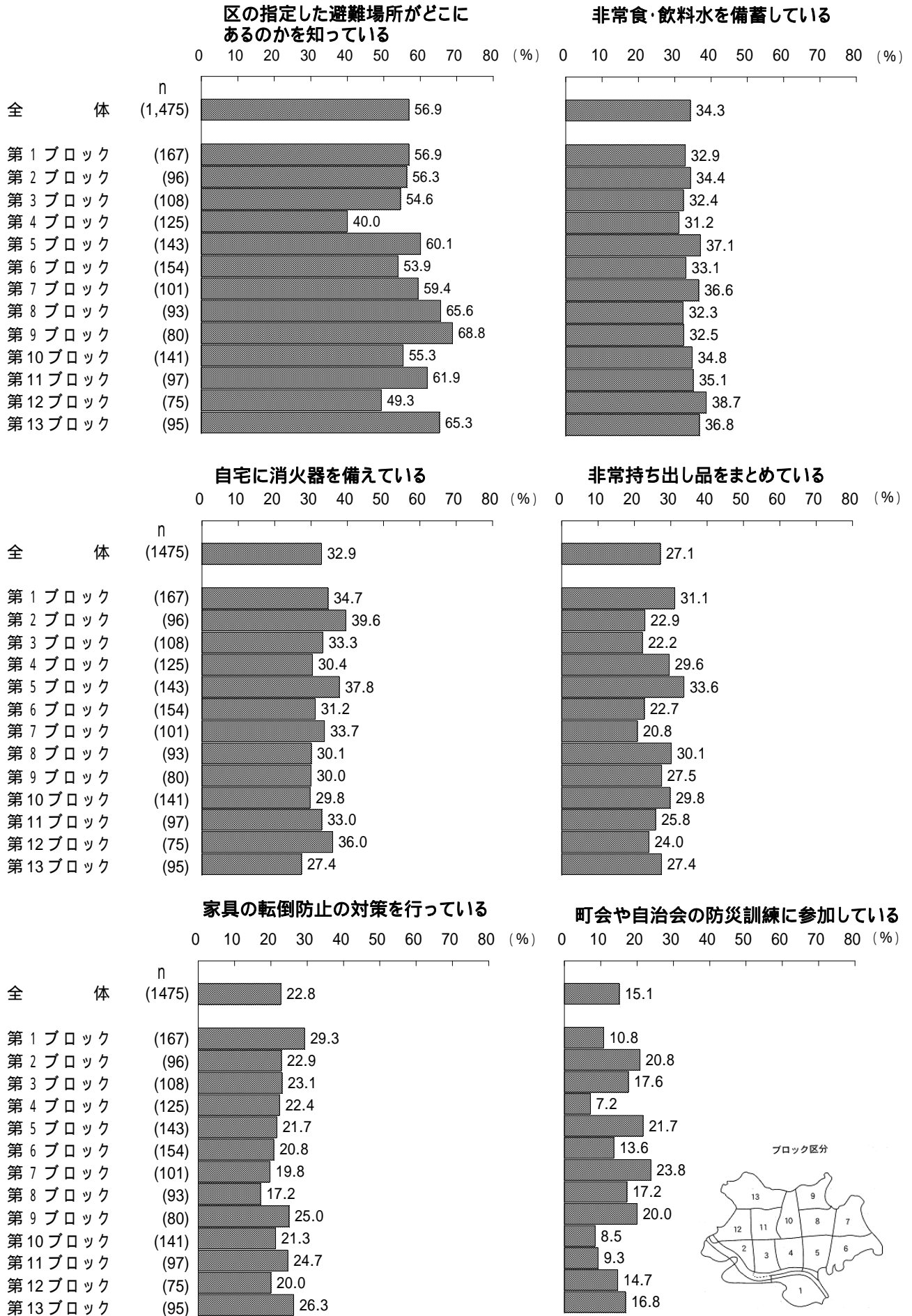
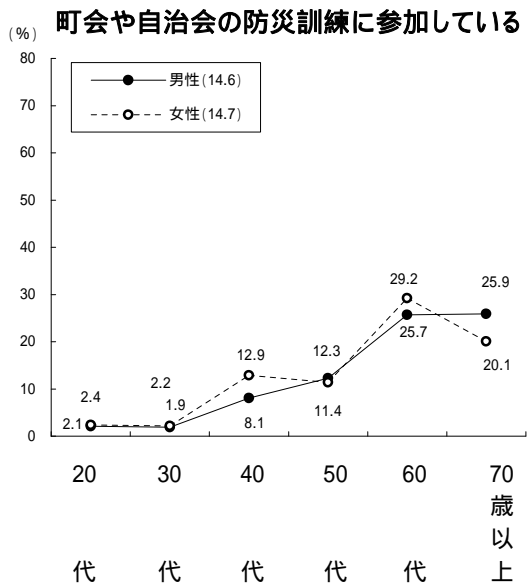
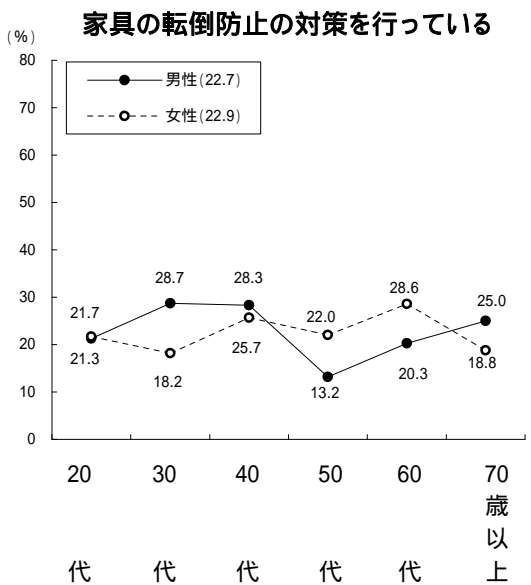
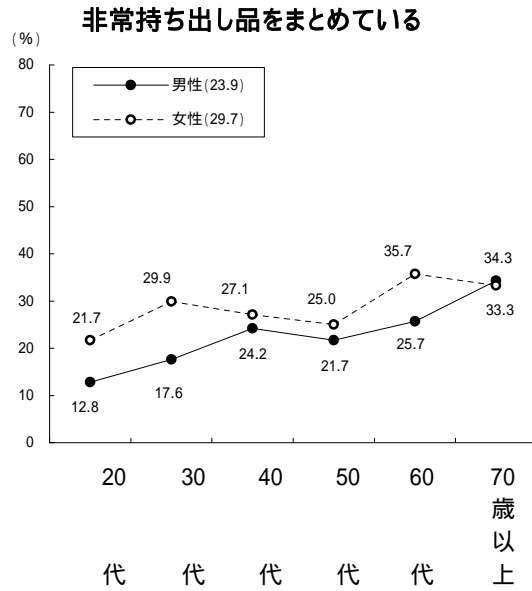
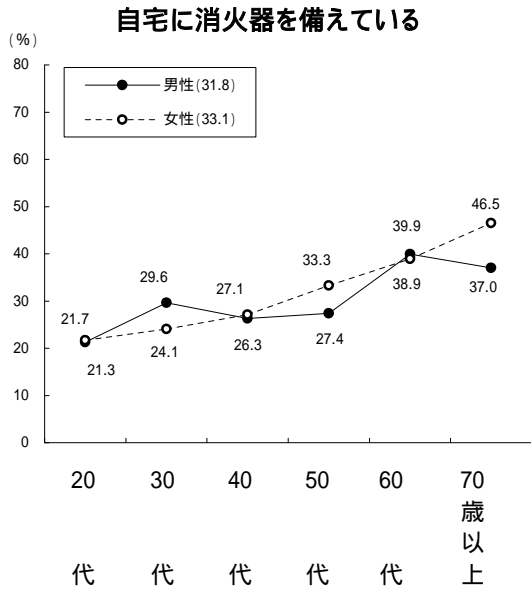
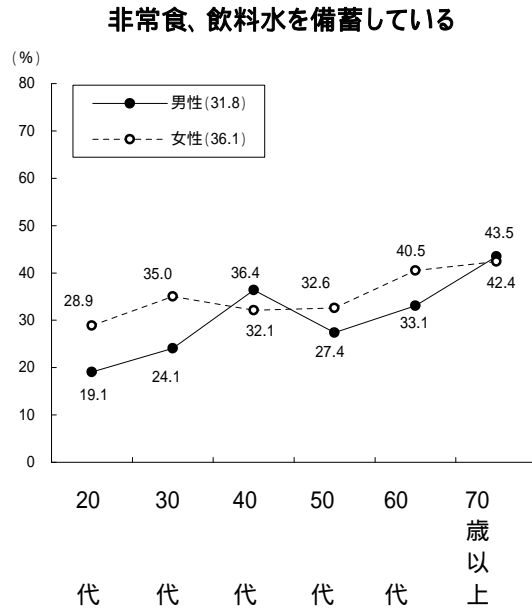
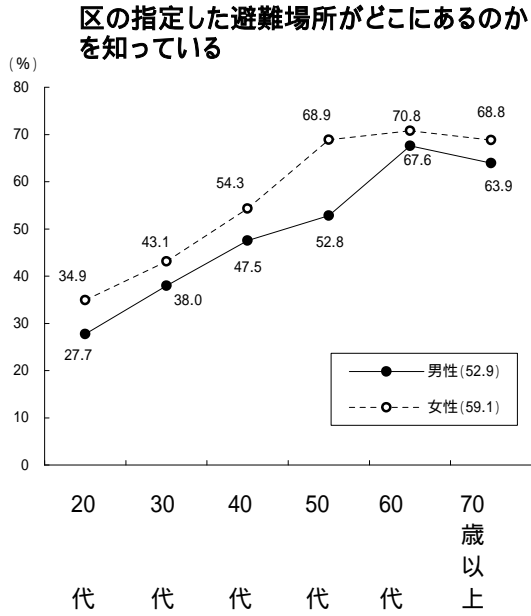


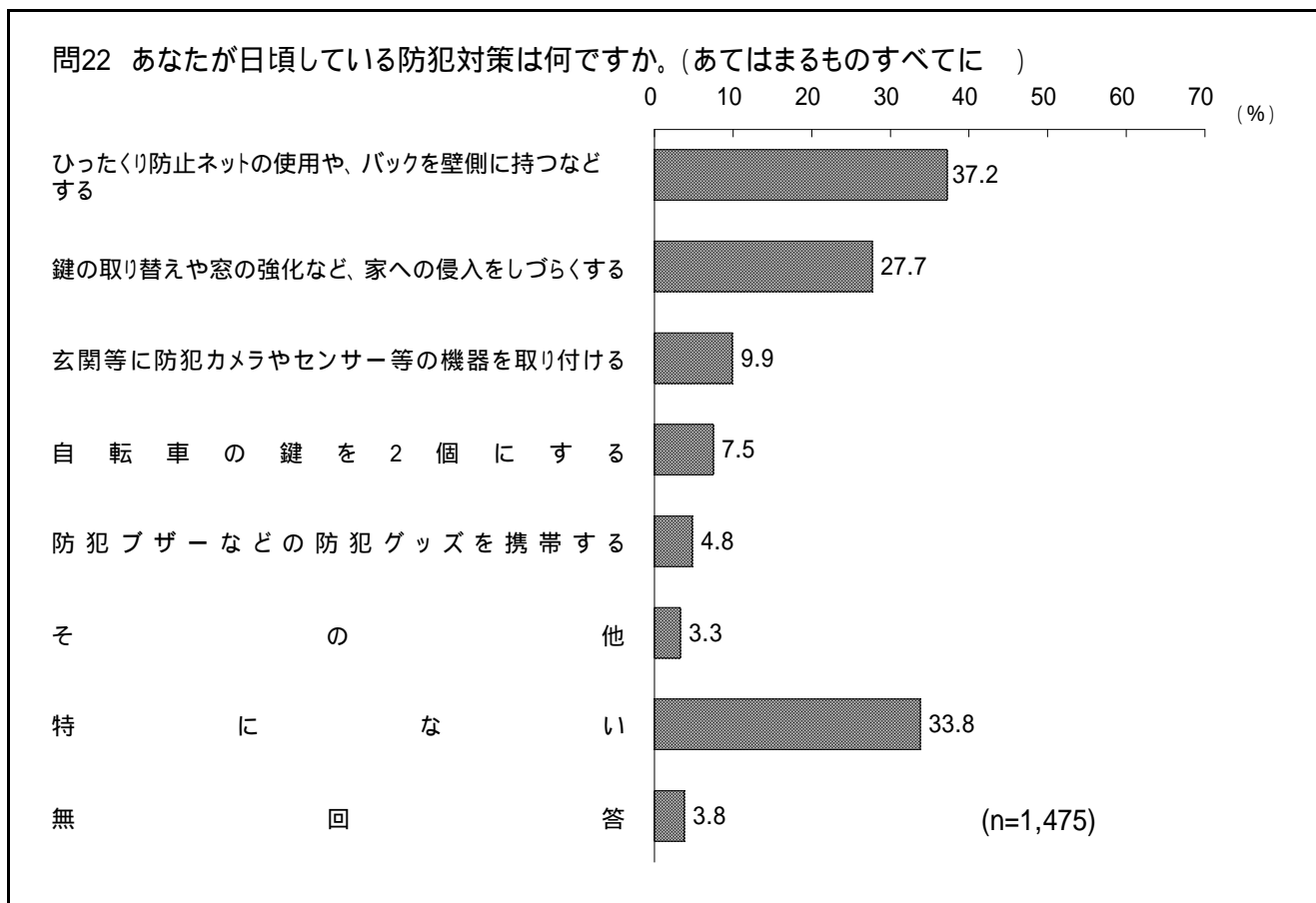
図 4 - 2 - 2 災害に備えていること (性・年代別)



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(3) 日頃の防犯対策

「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が37.2%で最も高い

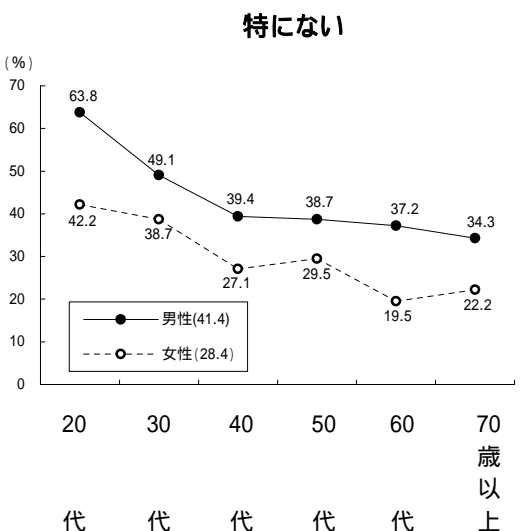
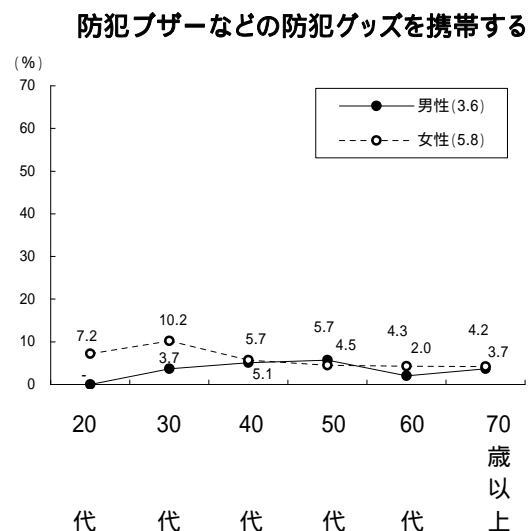
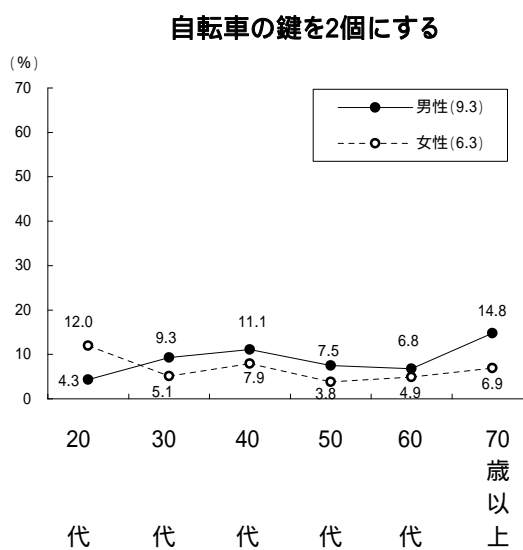
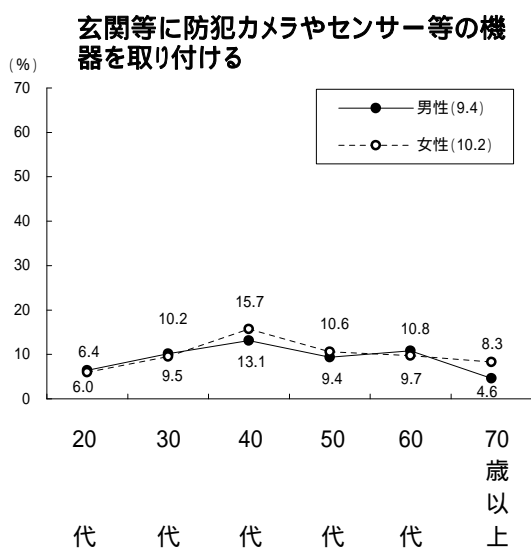
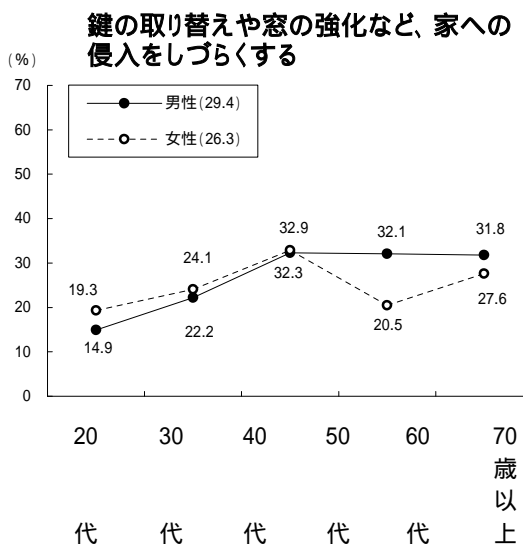
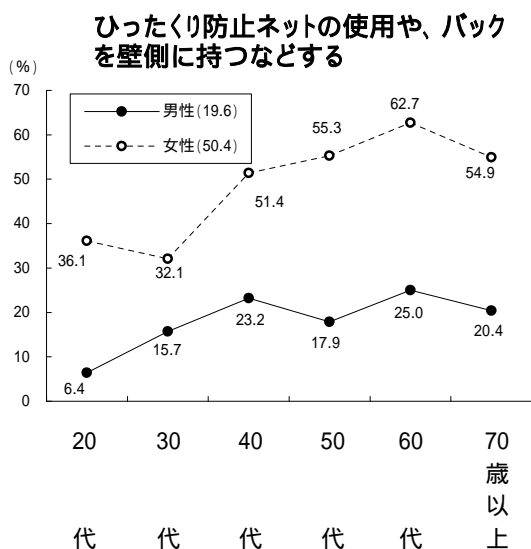


日頃の防犯対策については、「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が37.2%で最も高く、「鍵の取り替えや窓の強化など、家への侵入をしづらくする」が27.7%、「特にない」も33.8%みられる。

性・年代別にみると、図4 - 3 - 1のとおりである。

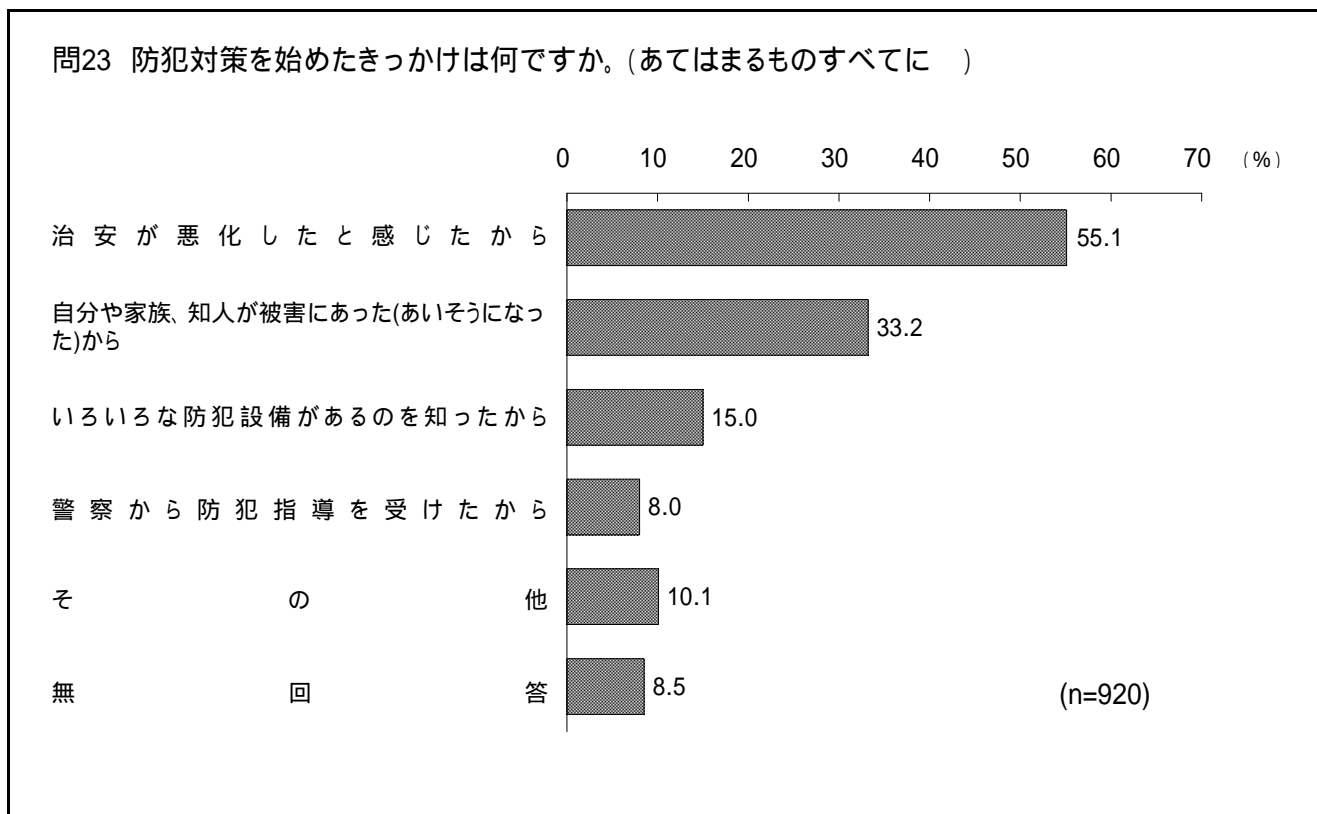
「ひたたくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」では他の防犯対策に比べ男女間の差が最も大きく、特に女性60代で62.7%と最も高く、年代が上がるにつれ上昇する傾向がある一方で、男性はいずれの年代においても25%以下にとどまっている。また、「特にない」はいずれの年代においても、男性の方が女性よりも高く、男女ともに年代が上がるにつれ下降する傾向がある。

図 4 - 3 - 1 日頃の防犯対策（性・年代別）



(4) 防犯対策を始めた動機

「治安が悪化したと感じたから」が最も高く約55%

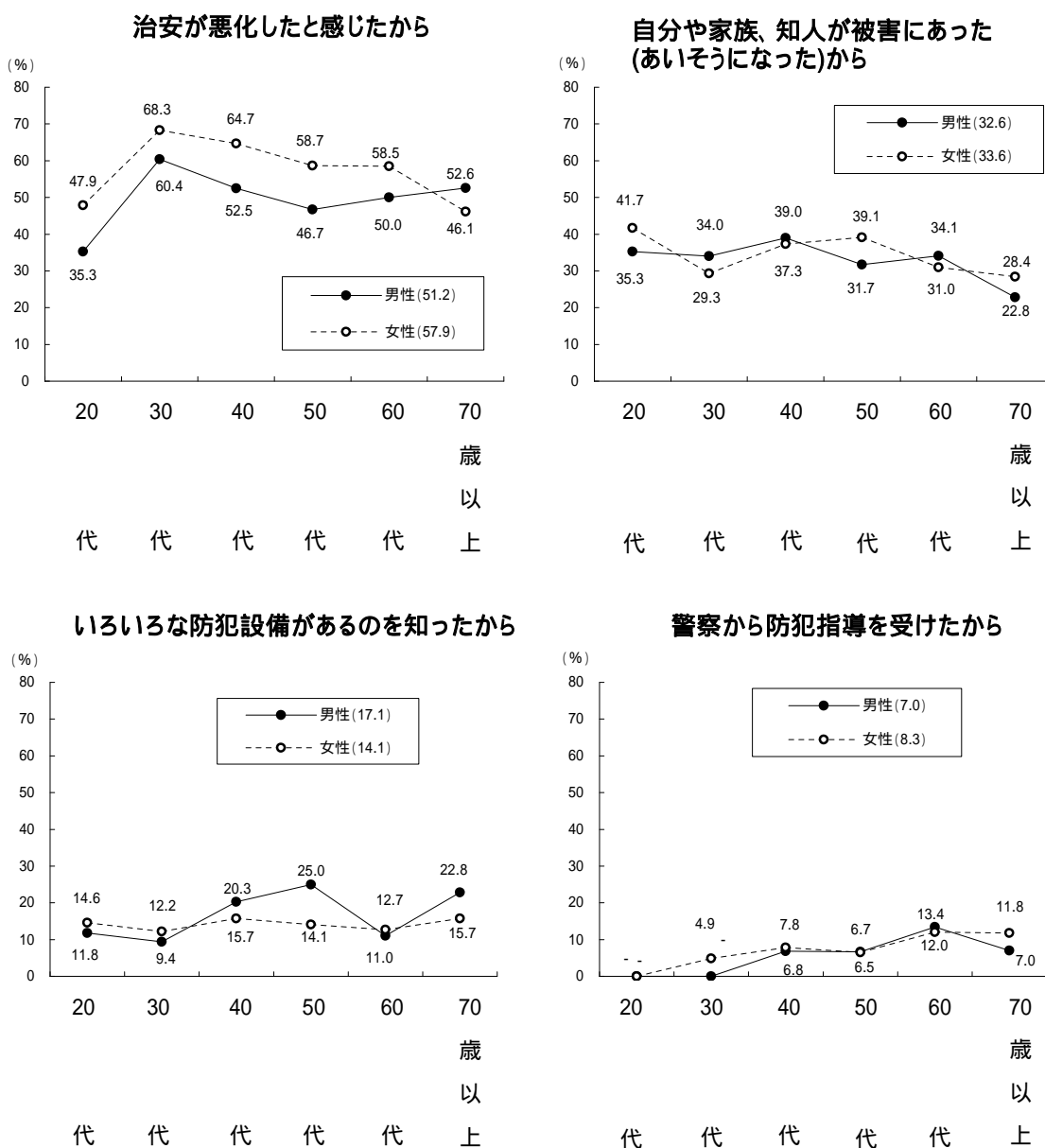


日頃から防犯対策を行っている人の動機については、「治安が悪化したと感じたから」が55.1%と最も高くなっている。次いで「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」が33.2%、「いろいろな防犯設備があるのを知ったから」が15.0%の順となっている。

性・年代別にみると、図4 - 4 - 1のとおりである。

「治安が悪化したと感じたから」では、女性の方が男性よりも全体的に高い傾向があり、女性30代、40代が60%台で他の年代に比べ比較的高い。また、男女ともに30代が最も高くなっている。また「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」はどの年代においても30%前後を示している。

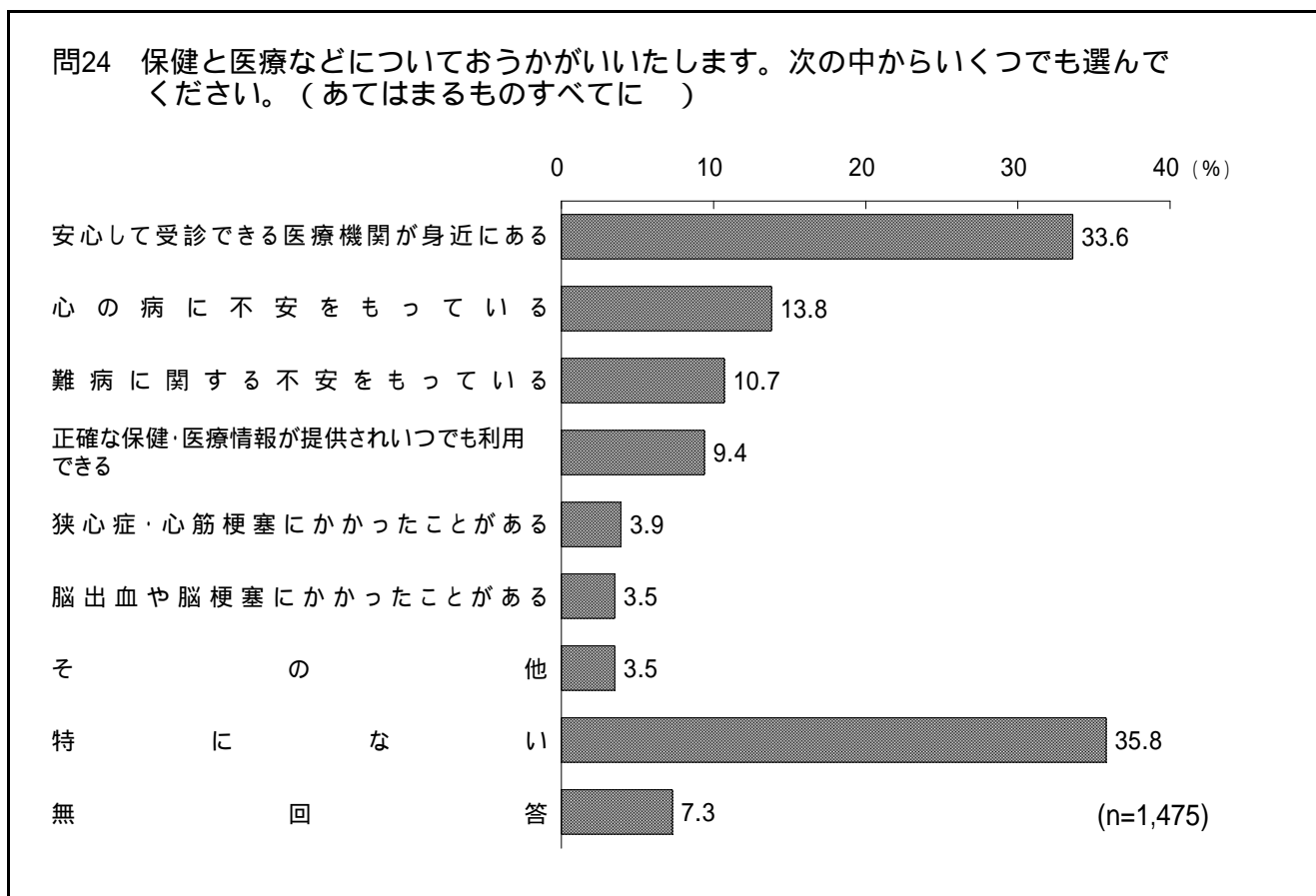
図 4 - 4 - 1 防犯対策を始めた動機 (性・年代別)



: ()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(5) 保健と医療

3人に1人が「安心して受診できる医療機関が身近にある」

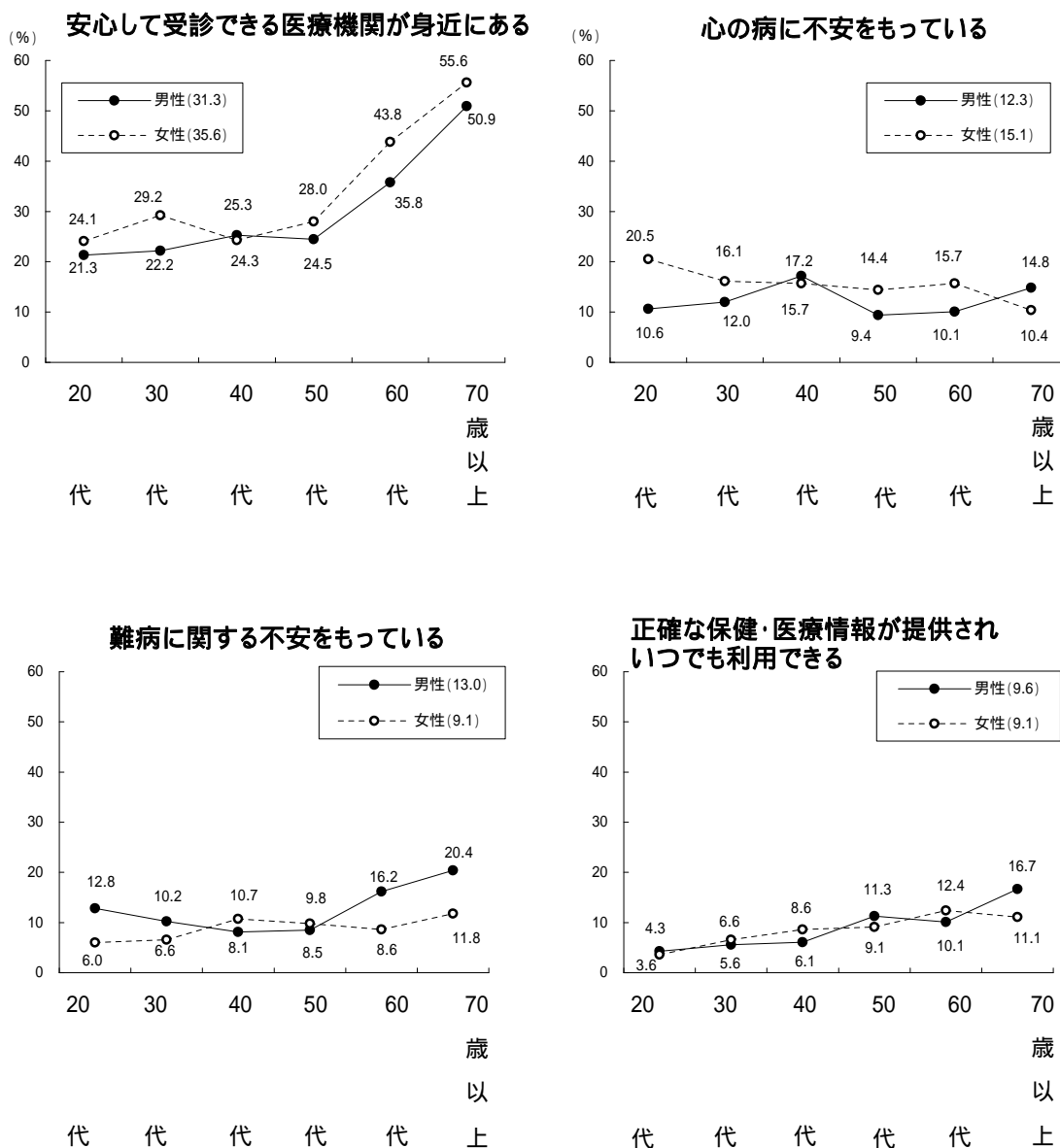


保健と医療などについて聞いてみると、「安心して受診できる医療機関が身近にある」が33.6%を示している。一方「心の病に不安をもっている」は13.8%、「難病に関する不安をもっている」は10.7%となっている。

性・年代別にみると、図4 - 5 - 1のとおりである。

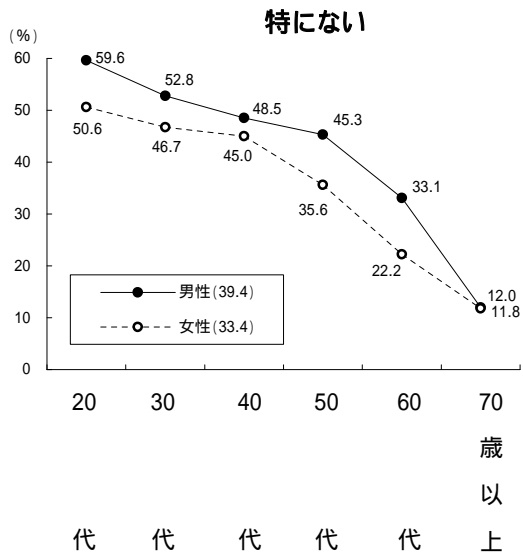
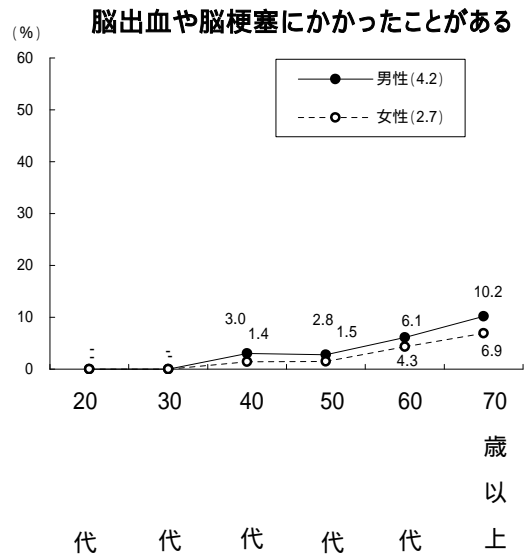
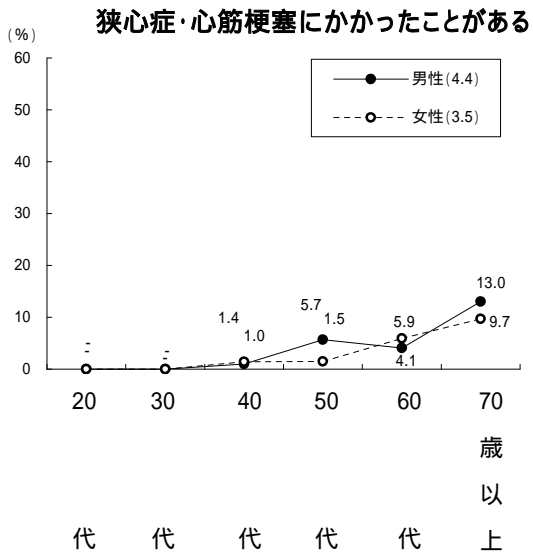
「安心して受診できる医療機関がある」は男女とも年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、70歳以上では50%を超えている(男性 55.6%、女性 50.9%)。一方、「心の病に不安をもっている」は女性20代で20%以上を示し最も高い。また、「難病に関する不安をもっている」は、男女ともに70歳以上が最も高くなっている(男性20.4%、女性11.8%)。

図 4 - 5 - 1 保健と医療 (性・年代別)



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

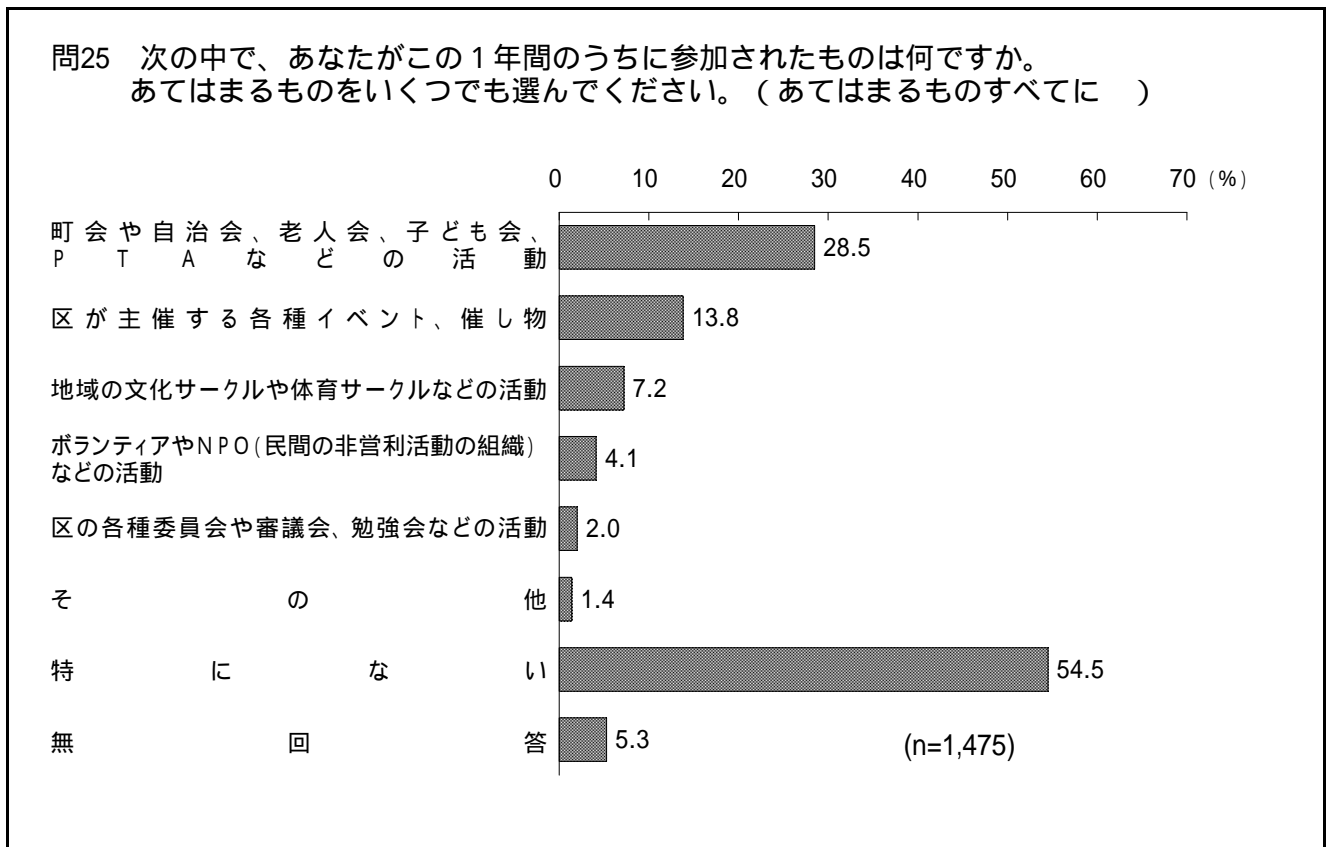
図 4 - 5 - 1 保健と医療 (性・年代別) - つづき -



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(6) 地域活動の参加状況

「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が最も高い

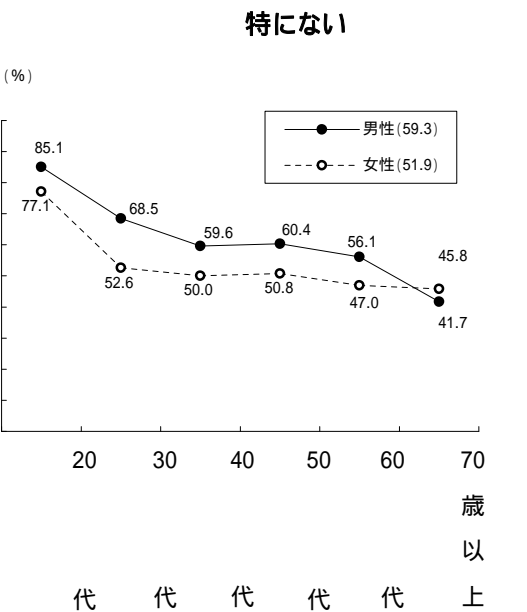
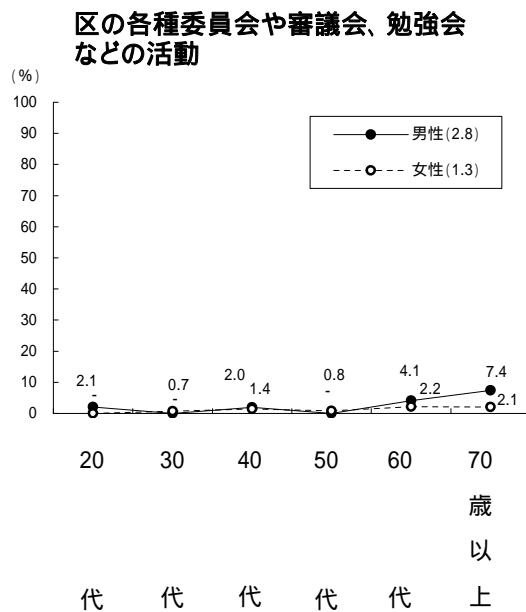
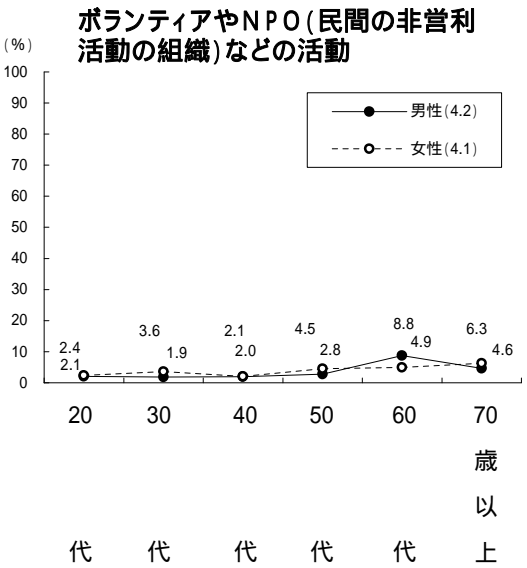
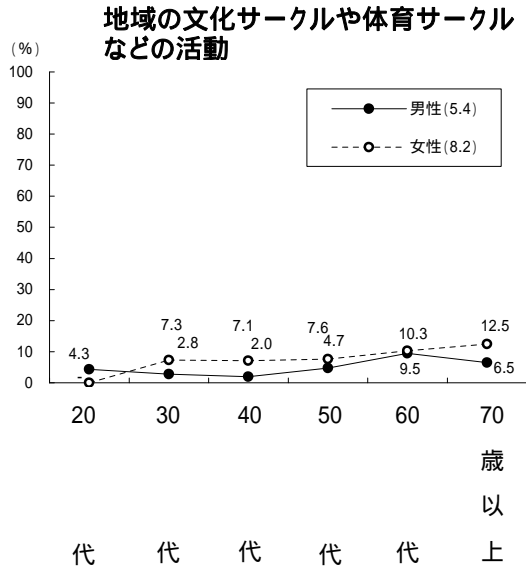
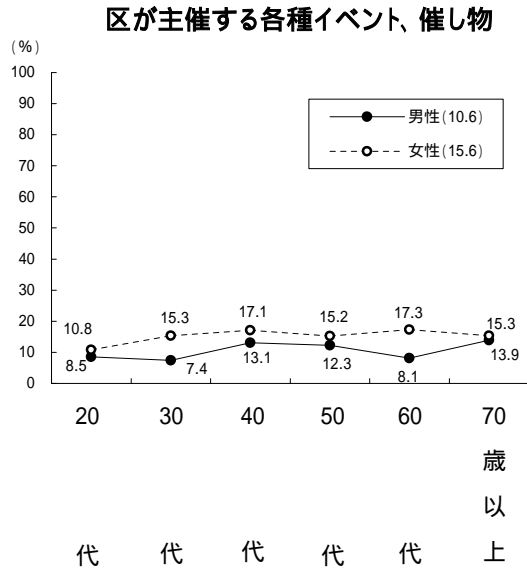
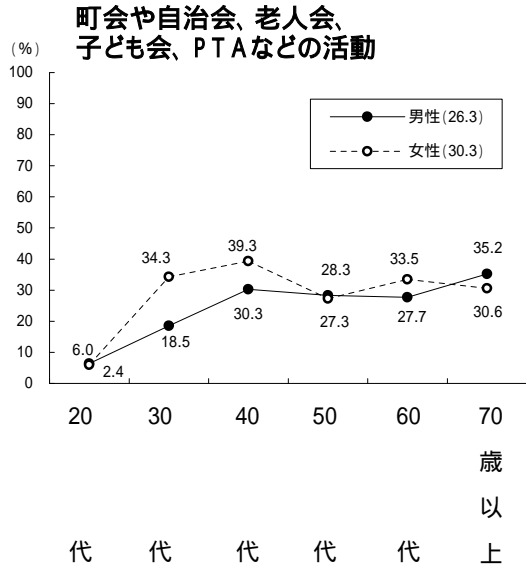


この1年間に参加した地域活動については、「特にない」が54.5%で、半数以上が参加していなかった。参加したものでは「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が28.5%と最も高く、次いで「区が主催する各種イベント、催し物」は13.8%、「地域の文化サークルや体育サークルなどの活動」は7.2%となっている。

性・年代別にみると、図4 - 6 - 1のとおりである。

「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」は女性40代で39.3%と最も高く、次いで女性30代が34.3%となっており、全体的に女性の方が男性よりも高い傾向があり、30代、40代で顕著である。また、「区が主催する各種イベント、催し物」でも全体的に女性の方が男性よりやや高い傾向にある。

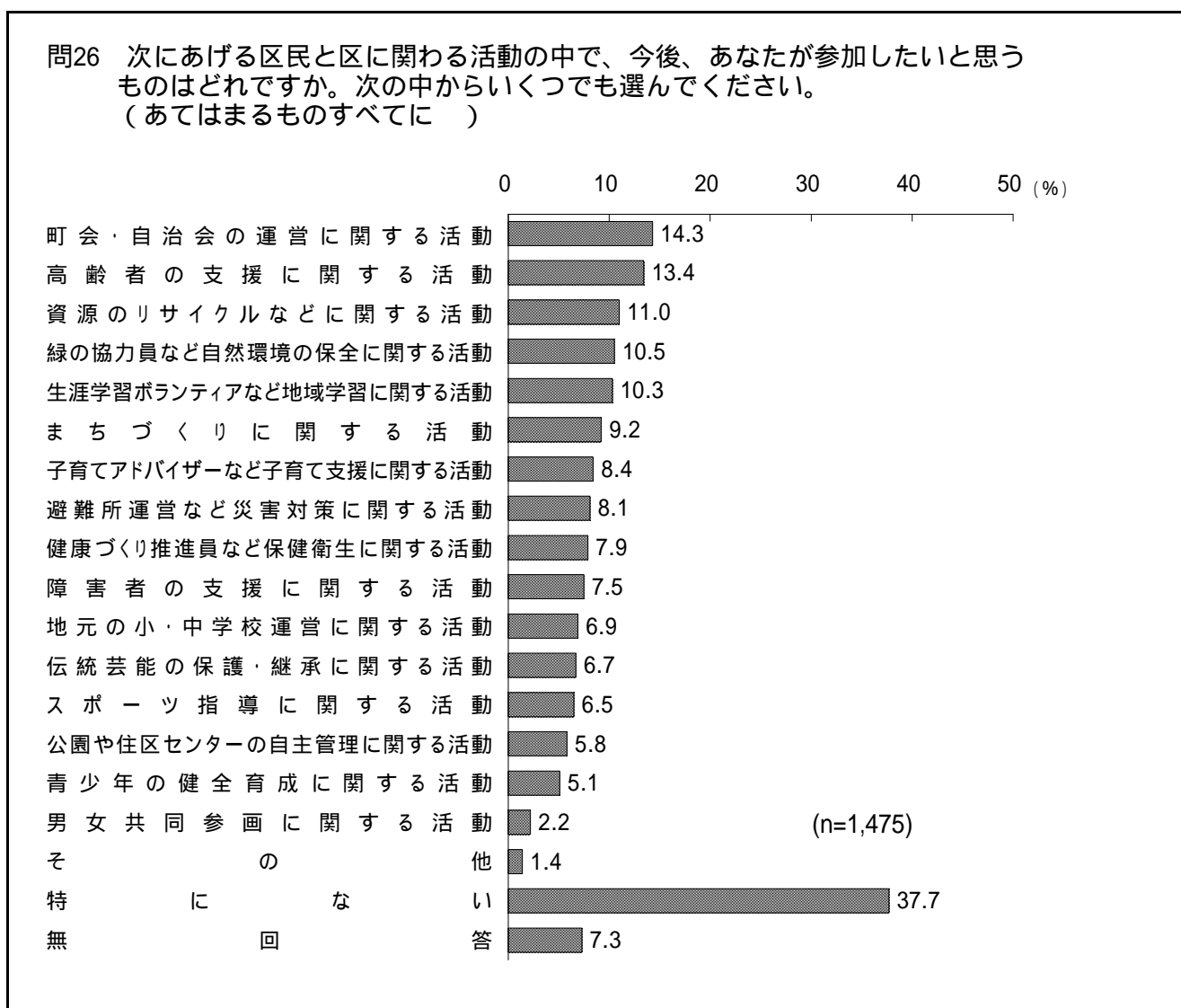
図 4 - 6 - 1 地域活動の参加状況 (性・年代別)



:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(7) 地域活動への参加意向

「町会・自治会の運営に関する活動」が14.3%で最も高い

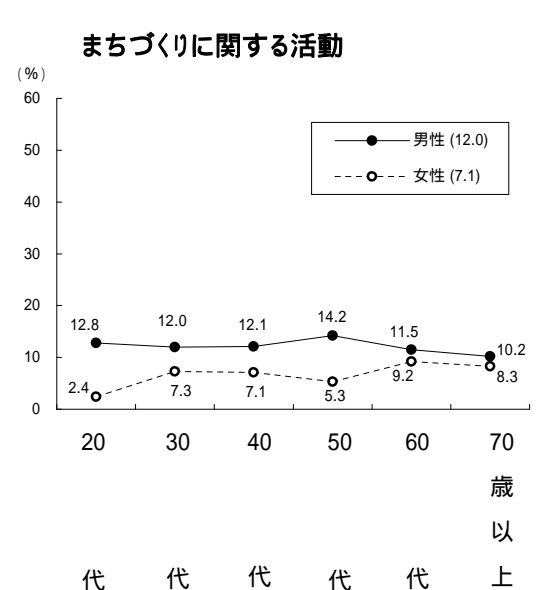
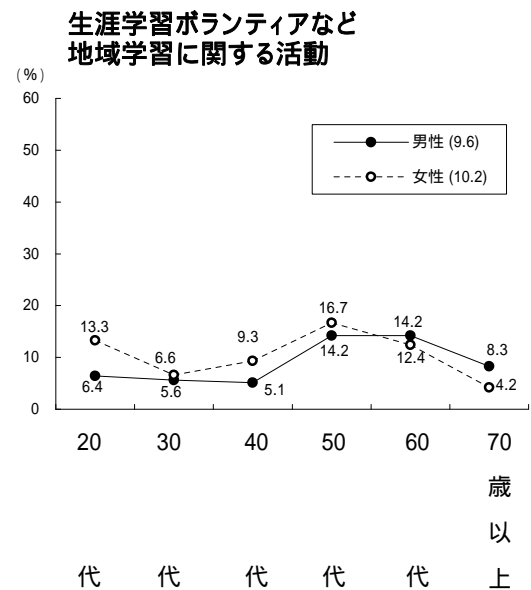
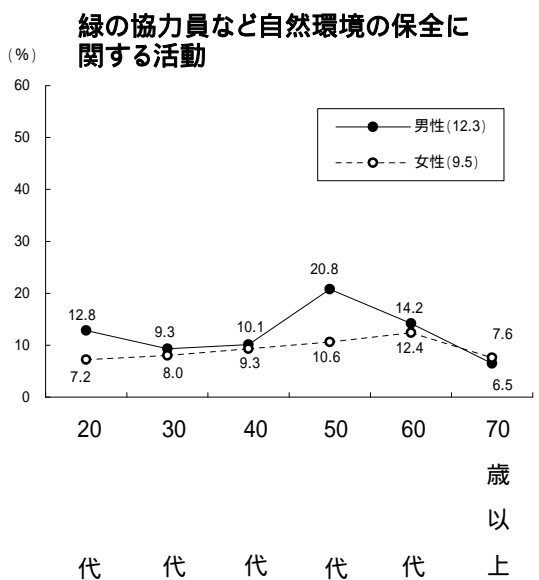
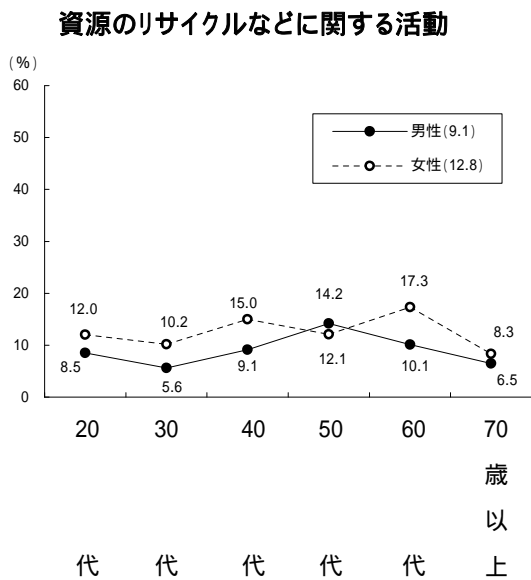
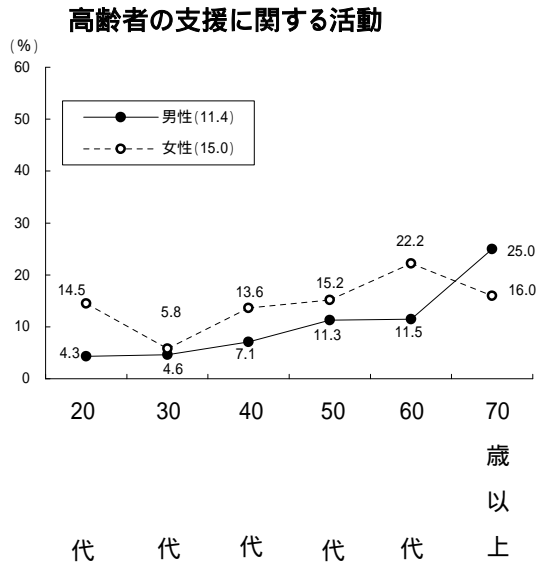
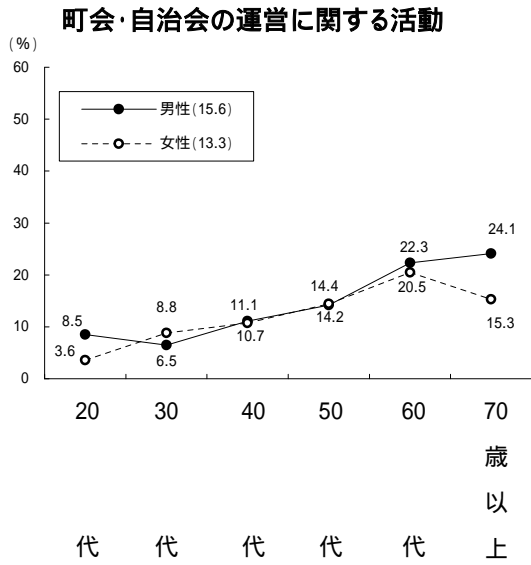


今後参加したいと思う地域活動については、「町会・自治会の運営に関する活動」が14.3%で最も高い。次いで「高齢者の支援に関する活動」が13.4%、「資源のリサイクルに関する活動」が11.0%と続いている。一方、「特にない」は37.7%を占めている。

性・年代別にみると、図4 - 7 - 1のとおりである。

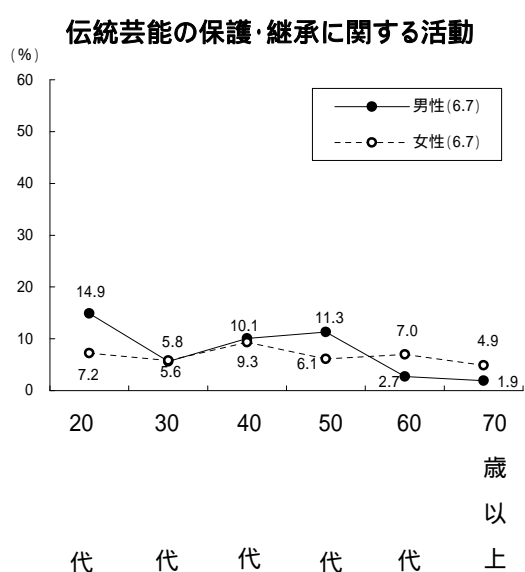
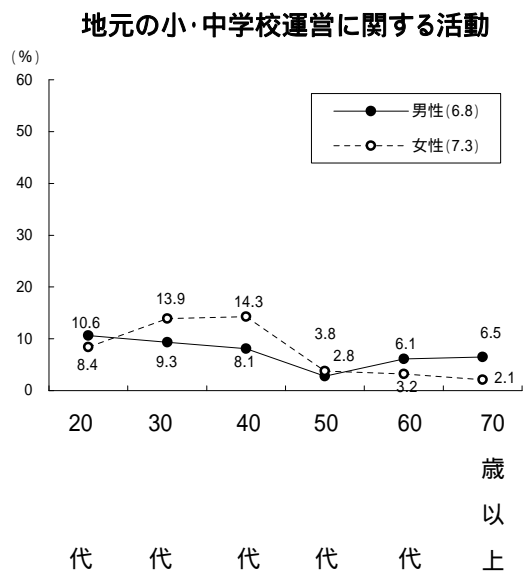
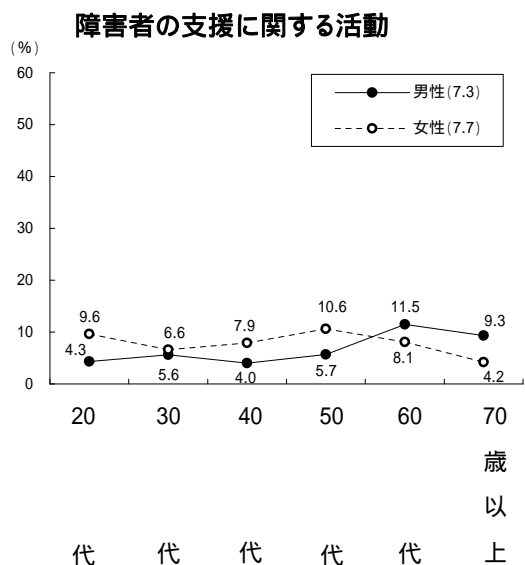
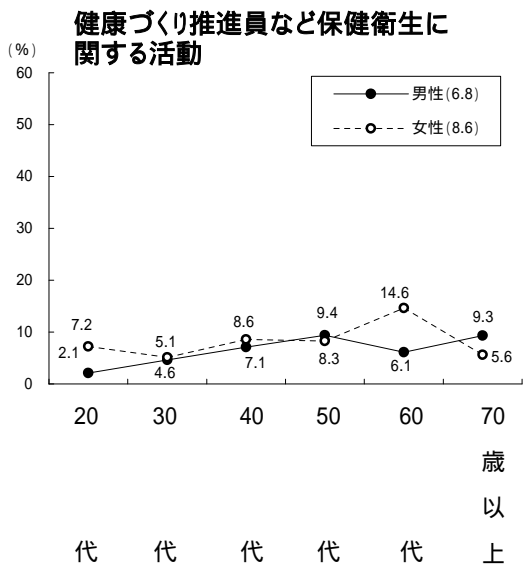
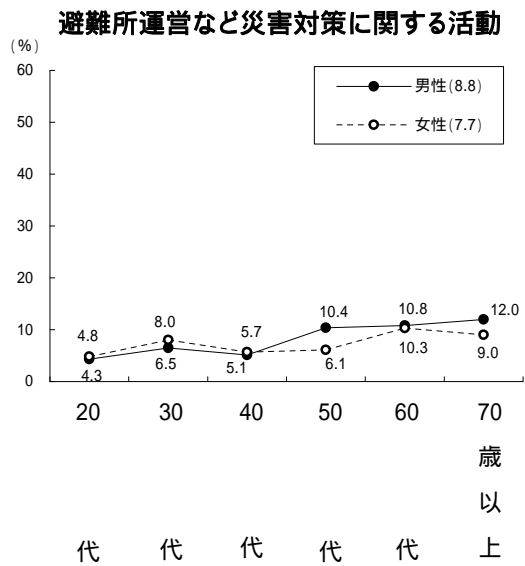
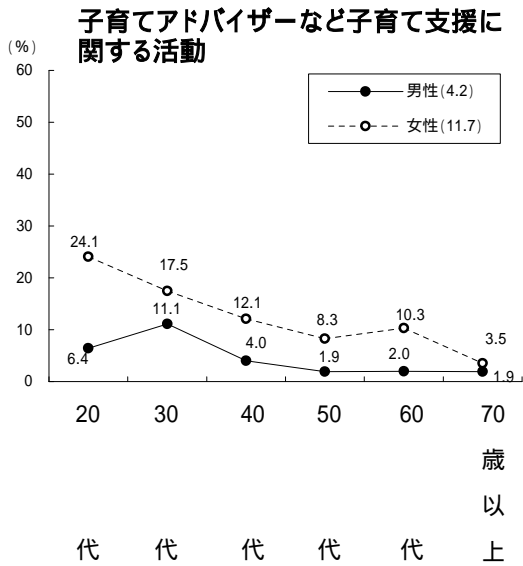
「町会・自治会の運営に関する活動」と「高齢者の支援に関する活動」では、男性は年代が上がるにつれて上昇する傾向がみられ、男性70歳以上では約25%にのぼる。「子育てアドバイザーなど子育て支援に関する活動」ではいずれの年代においても女性の方が男性よりも高く、女性20代が24.1%と最も高い。

図 4 - 7 - 1 地域活動への参加意向 (性・年代別)



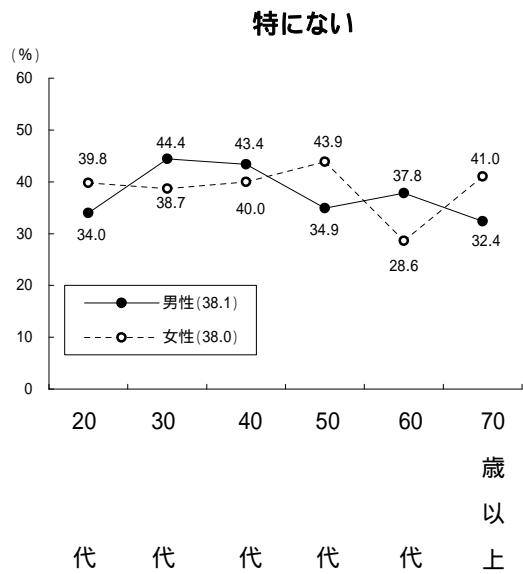
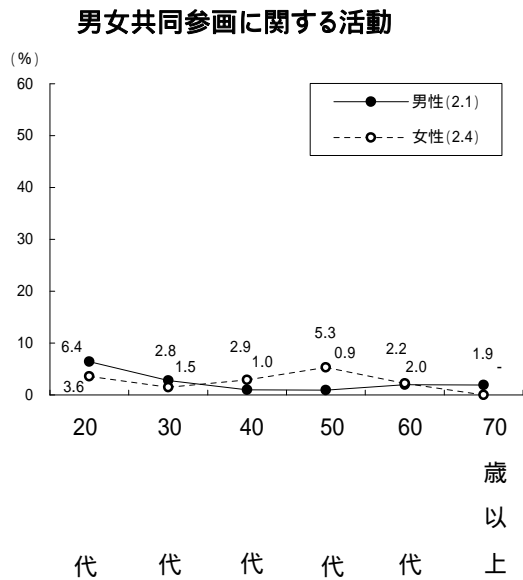
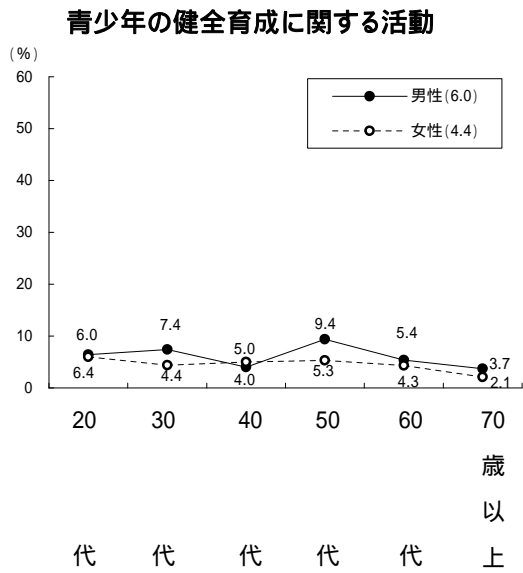
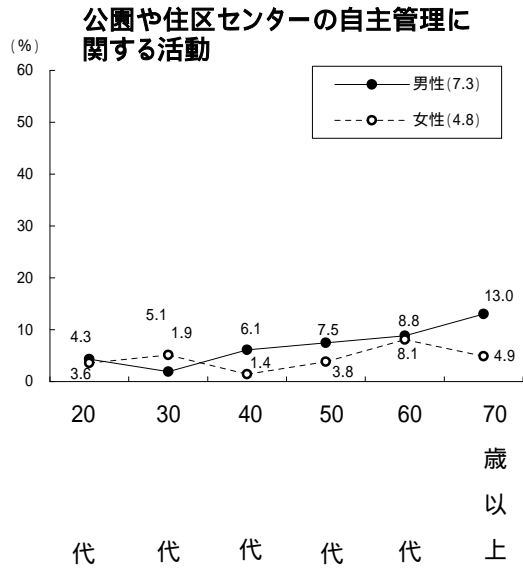
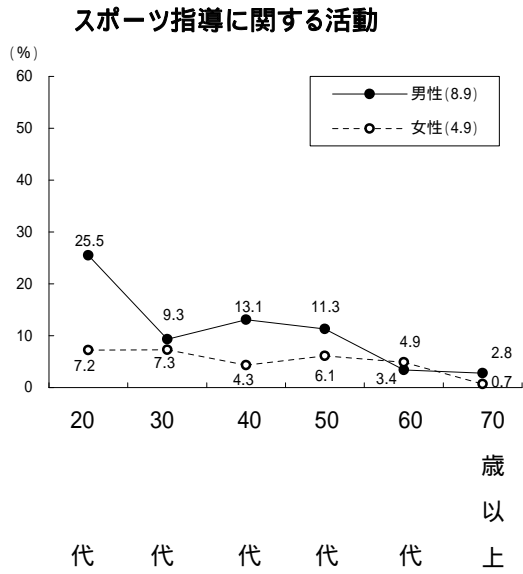
()内の数値は男女それぞれの全体を示す

図 4 - 7 - 1 地域活動への参加意向 (性・年代別) - つづき -



()内の数値は男女それぞれの全体を示す

図 4 - 7 - 1 地域活動への参加意向 (性・年代別) - つづき -



()内の数値は男女それぞれの全体を示す